

Akulakuのマイルストーン



2014 年、香港在住の東南アジア（フィリピンやインドネシア）出身出稼ぎ労働者向けの海外送金事業から金融事業を開始。

2016 年にインドネシア、フィリピン、マレーシアにおけるオンラインショッピング・割賦販売の事業へ転換しました。その後、Akulaku ペイ、キャッシュローンなど、自社のテクノロジーをベースに金融事業の幅を広げています。

地図からみるAkulaku



深センには 230 名以上の IT 技術者が在籍し、テクノロジーを提供するベースとなっています。新しく開設された北京の技術センターは、AI などの最先端技術の開発拠点とする計画です。最大市場であるインドネシアでは、1,200 名以上の従業員が現地マーケティング、回収などオペレーションの最適化に取り組んでいます。

Akulakuの成長戦略（中長期プラン）



現在提供中のクレジット商品からオールインワン・デジタルクレジットカードへとサービスを拡大させ、将来的にはフィンテックを全面に活用したオンラインリテール銀行となることを目指しています。

▼Akulaku の強み

◆簡単申込で多くのユーザーを獲得中

クレジットカードの普及率が低く、スマホ・インターネットの普及率が高いインドネシアでは、モバイルアプリで簡単にローンの申し込みができる Akulaku のサービスは、幅広い中間所得層から好評を得ています。

ユーザープロフィール	
登録ユーザー数	11,879,586人
アクティブユーザー数 (1日あたり)	463,382人
アクティブユーザー数 (1ヶ月あたり)	3,355,306人
年齢層	21歳～35歳
男女割合	男性65%:女性35%

(2018年8月末時点実績)

貸付プロフィール	
貸付総額	約517億8,600万円
貸付残高	約86億8,800万円※
平均貸付額	約11,430円
平均貸付期間	8ヶ月

(2018年8月末時点実績)

※2018年10月末時点の貸付残高は約99億2,385万円

◆高度な技術による不正防止

生体認証、不正検出のアルゴリズムや精度の高いクレジットスコアリングなど、金融テクノロジーの最先端技術を保有しています。

現在、研究開発用従業員は 200 名以上在籍しており、今後も開発要員を増員する事によって、AI（人工知能）の活用などを進めていく計画があります。



(写真：深センの開発オフィスの様子)

▼Akulaku 案件の特徴

本案件の投資判断において、主なポイントとしては

①財務状況とその見通し ②オペレーション面 ③コンプライアンス対応 ④カントリーリスクの 4 つがあると
考えています。

①財務状況とその見通しについて

Akulaku は 2018 年にインドネシアの地方銀行及び韓国系の銀行との事業提携を実現し、
資金調達先の多様化に取り組んでいます。

今後はこのような金融機関との提携が増えることを想定しており、資金調達コストの低減と共に、
優良ユーザーへの貸出金利も下げ、金融サービスの競争力を更に高めていく見通しです。

また、数々の有名なベンチャーキャピタルからエクイティの資金調達もしており、
豊富な手元流動資金を確保しています。

直近では、2018 年 10 月末に約 76 億円のエクイティの資金調達が発表されています。

2018 年の損益面では、ブレイクイーブンには未だ達していないものの、ほぼ毎月改善しており、
2018 年 11 月には、損益計算書上の貸倒引当金を除くと、黒字へ転換している状態となっています。

貸倒費用については、貸付金の大幅な増大と共に増えてはいますが、
割合としては減少傾向にあり、リスク・コントロールが制御されている状況が数値に表れています。

②オペレーション面について

新規顧客を数多く獲得していく段階においては、

アルゴリズムにズレが発生する可能性があり、延滞や貸倒れが一時的に急上昇するなどの状況も発生し得ます。

そこで Akulaku では、生体認証技術や AI（人工知能）など高度な技術を応用することによって、

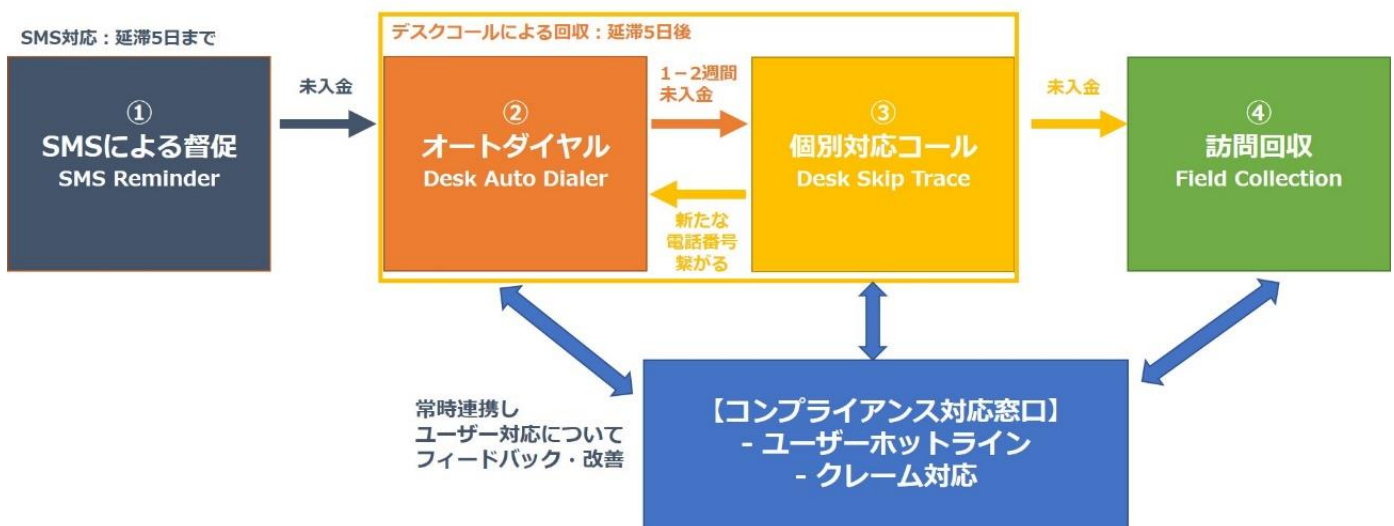
不正申込を未然に防いだり、将来貸倒れになる可能性の高いケースを減少させる改善に日々取り組んでいます。

また、資金回収の効率を向上するために、コールシステム（コールセンターの電話システム）や、

GPS システム（訪問回収）による位置特定情報など自社技術を活用しています。

このような技術に加え、顧客データベースの情報量の増加に伴い与信アルゴリズムの精度が上がってきているため、残高を伸ばしながらも、延滞発生比率は改善傾向にあり、安定したパフォーマンスを積み上げている状況です。

Akulaku 回収プロセス



③コンプライアンス対応

近年インドネシアではフィンテック企業の進出が目立つ一方、市場にはルールが未整備となっている部分も多く、当局が市場整備を強化していく動きが予想されています。

Akulaku では当局対応を重要視しており、自社のガイドラインを作成し、外部委託を含む約 1,500 人の回収スタッフに対して個人情報の取扱や督促時のクレーム対応を徹底管理するなどの対応を行っています。

④カントリーリスクについて

インドネシアの経済成長率は直近 5 年で 5%前後を維持しており、安定的な経済成長が続いています。

対外的な衝撃に対する耐性も高まってきたと考えられ、インドネシアの国債の格付けは

主要格付会社 3 社（米格付会社 S&P、フィッチ、ムーディーズ）で投資適格級になっています。

東南アジア最大である約 2 億 6,000 万の人口を有し、個人消費を中心に内需拡大が進んでいます。

	S&P	Moody's	Fitch
インドネシア	BBB-	Baa2	BBB
マレーシア	A-	A3	A-
フィリピン	BBB	Baa2	BBB
タイ	BBB+	Baa1	BBB+
ベトナム	BB-	B1	BB-

大手格付け機関による東南アジア諸国の格付け（出所 IMF）

しかし、米国の利上げや長期金利上昇の影響でインドネシアのルピア対米ドル相場は下落傾向にあります。



過去 5 年間の米ドル対インドネシアルピアのチャート（出所 ロイター）

Akulaku では現在、主な借入は米ドル建となっており、為替ヘッジにより、インドネシアルピア対米ドルの下落相場のリスクを軽減しています。
為替動向や外貨借入の増加の状況について、細心の注意を払い対応を行っています。



maneo 及び事業者 FG による Akulaku の現地視察（2018 年 12 月）

▼Akulaku の回収

◆デスク回収

ジャカルタ中心部から約 1 時間、ブカシ市にあるオフィスで 400 人以上のデスク回収スタッフが資金回収業務をサポートしています。



（写真：デスク回収のオフィスの様子）



(写真：Akulaku の回収チームと一緒にデスク回収オフィス前での撮影)

◆フィールド回収

600 人以上のフィールド回収スタッフが実際に借り手の住所を特定し、資金回収を行います。



(写真：回収業務開始の準備の様子)



(写真：資金回収先の周辺の聞き込み調査の様子)



(写真：フィールド回収チームによる資金回収の成功事例の様子)

▼Akulaku のその他のサービスについて

Akulaku は、キャッシュローンやオンラインの割賦販売以外にも事業を拡大しています。

◆Akulaku Pay Offline

アプリのバーコードの読み取りで店舗での支払いができるようになりました。



(写真：店舗での Akulaku Pay Offline の支払い画面)

インドネシアで流行する既存の電子マネーサービスと異なり、ユーザーはチャージの手間なく使えるのが特徴です。

▼Akulaku の紹介動画

[Akulaku の事業紹介](#)

[Akulaku マルタ氏のインタビュー](#)

[Akulaku 顧客のインタビュー](#)

[Akulaku 回収チームのインタビュー](#)